

千葉市美術館企画展「板倉鼎・須美子展」を開催します ～千葉ゆかりの夭折した洋画家夫妻の作品世界を紹介する回顧展～

千葉市美術館では、企画展「板倉鼎・須美子展」を以下のとおり開催しますので、お知らせします。

本展では、千葉にゆかりのある洋画家板倉鼎とその妻である須美子の短くも鮮烈な画業を約240点の作品や資料を通してご紹介します。

開催に先立ちまして、4月5日（金）14：00から記者の皆さまへの説明会を実施しますので、ぜひ取材にお越しくください。

1 会期

令和6年4月6日（土）～6月16日（日）

休室日 4月15日（月）、5月7日（火）、20日（月）、6月3日（月）

※5月7日（火）、6月3日（月）は全館休館

2 会場

千葉市美術館（中央区中央3-10-8）

3 主催

千葉市美術館

4 ポイント

◆夭折した洋画家夫妻、その鮮やかな作品世界の全貌を約240点で一瞥

1920年代後半のパリに留学し、独創的な作品で若手芸術家の登竜門とされるサロン・ドートンヌに入選、晩年は現地の一流画商が作品を預かるなど評価を得るものの、20代の若さで相次いで世を去った画家、板倉鼎・須美子夫妻。千葉市美術館では2021年にご遺族から板倉鼎の作品33点の寄贈を受けました。このことを記念し、本展では約240点から二人の作品世界の全貌を紹介。志半ばで世を去った二人の、短いながらもひたむきで清らかな、また自身のオリジナリティーを模索し続けた軌跡を展覧します。

◆千葉ゆかりの洋画家・板倉鼎による大正時代の千葉県庁舎を描いた作品も展示

板倉鼎は幼少期から青年期を松戸市に過ごし、旧制千葉中学校で洋画家堀江正章に画を学ぶなど千葉にゆかりのある人物です。鼎は2年生のときに堀江を特別委員とした学内の「葛城画会」に参加し、油彩画を描くようになりました。1917（大正6）年に制作した、千葉県庁舎のドーム型の屋根を望む油彩画《千葉町》も残っており、当時の千葉市の情景を知ることができます。また、千葉陸軍病院（現在の独立行政法人国立病院機構千葉医療センター）や千葉県立美術館が所蔵する板倉鼎の作品も展示されます。

◆1920年代パリに生きた日本人画家の姿を浮き彫りに

本展では二人の作品だけでなく、日本の家族にあてた書簡やパリで撮影された写真を展示することで、一時は藤田嗣治を頂点に数百人の日本人画家がしのぎを削っていたというエコール・ド・パリの日本人画壇の空気も浮かび上がらせ、1920年代後半のパリに生きた日本人画家という、日本近代の洋画を考える上で普遍的なテーマを丁寧に深堀りします。さらに、板倉夫妻とパリで生まれた長女を撮影した貴重な動画も上映、若い洋画家夫妻のみずみずしい姿をご紹介します。

5 観覧料

一般 1,200円(960円)、大学生 700円(560円)

※小・中学生、高校生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。

※()内は前売券、市内在住65歳以上の方の料金。

※前売券は、ローソンチケット(Lコード:35134)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて4月5日まで販売(4月6日以降は当日券販売)。

※ナイトミュージアム割引 金・土曜日の18時以降は観覧料半額

6 関連イベント

担当学芸員によるショートレクチャー、講演会、朗読劇を開催

7 添付資料

本展チラシ

「板倉鼎・須美子展」関係者向け披露説明会 開催概要

1 日時

4月5日(金) 14:00から

2 場所

千葉市美術館 8階展示室

3 内容

展覧会や主な展示作品の見所について担当学芸員からご説明します。
当日は板倉家のご遺族と本展監修者も来場予定です。

<本件に関するお問い合わせ先>

千葉市美術館 担当学芸員 西山純子

広報担当 磯野愛

電話 043-221-2311

FAX 043-221-2316